

ウェールズ | Wales | Cymru

エコシステム・レポート

2022 Report (v1.0)



Contents

第1章：ウェールズについて

- このレポートについて p. 3
- 序章 – Honorary Consul for Japan in Wales p. 4
- 数字で見るウェールズ p. 5
- ウェールズ文化入門 p. 6
- ウェールズは英国の他の地域とどう違うのか？ p. 7

第2章：ウェールズの経済概況

- ウェールズ経済における高成長分野 p. 8
- 高成長分野のスポットライト p. 9
- ウェールズへの投資 – 主要分野 p. 10
- ウェールズへの投資 – 主要投資家 p. 11
- インタビュー：ウェールズにおける英国政府 p. 12

第3章：ウェールズのスタートアップエコシステム概況

- インタビュー：ウェールズの起業家精神 p. 13
- ウェールズの大学 p. 14
- ウェールズの大学 – 外観 p. 15
- ウェールズの大学：スタートアップエコシステム活動 p. 16
- インタビュー：Menai Science Park (M-SParc) p. 17
- 支援機関 p. 18
- ウェールズで注目のイベント p. 20
- インタビュー：The Development Bank of Wales p. 21

第4章：ウェールズと北九州市との連携可能性

- 北九州市との連携可能性 p. 22
- 日本とウェールズとの強固な関係 p. 25
- ウェールズに拠点を置く日系企業 p. 26
- ウェールズにおける日本企業の主な取引 p. 27
- ウェールズにおける非日系外国企業とのコラボレーション事例 p. 28

第5章：注目のスタートアップとディレクトリ

- 注目のスタートアップ p. 29
- ディレクトリ：ウェールズのアクセラレータとインキュベータ p. 33
- ディレクトリ：ウェールズへの主な投資家 p. 34
- ディレクトリ：ウェールズにおける主要企業 p. 35

このレポートについて

2019年9月、ラグビーワールドカップ日本大会が華々しく幕を開け、世界178カ国、24万2千人の海外ファンを魅了した。観客はこの機会に平均で5つの都市を訪れた。これは日本全国数十の都市で地域利益を生み出すというイベントの推進に拍車をかけたといえる。

その一環として、大会に参加する主要チームは、全国各地の地方都市に拠点を構えることになった。ウェールズも例外ではなく、ワールドカップ前のトレーニング拠点を北九州市に置いた。

北九州市に拠点を定めたことは驚異的な支持を得て、ミクニワールドスタジアム北九州での公開練習には1万5千人を超える日本のファンが集まった。駅やコンコースには「Go Go Cymru」と書かれた赤い横断幕が掲げられるなど、文字通り街全体が真っ赤になってチームを魅了した。

ヘッドコーチのウォーレン・ガトランド氏は感動してこう述べた。「街中に貼られた旗やポスターを見て、選手たちはとても誇らしい気持ちになりました。街が私たちを応援してくれているのは、とても素晴らしいことです。皮肉にも、北九州市とウェールズは、鉱業や港湾の歴史において、非常に多くの類似点があるのです。」

「北九州市は、ウェールズやチーム、文化を受け入れ、消防車にまで赤い龍のマークをつけてくれました。そこには間違いなく絆があり、今後もこれを深め続けていけると期待しています。」

本レポートでは、ウェールズのビジネスとイノベーションのエコシステムに関する情報を共有し、将来的に北九州市とウェールズが類似点を活かしWin-Winのビジネス機会を促進するための方法を探っていく。





序章

Keith M Dunn OBE CML
Honorary Consul for Japan in Wales
July 2022

在ウェールズ日本国名誉領事として、ウェールズと日本との強固な関係を継続的に強化するために、ウェールズのビジネスエコシステムを取り上げた本レポートを紹介できることを嬉しく思います。

両国の関係は、19世紀末にまで遡ることができます。日本で産業が発展していく過程で、石炭や鉄鋼といったウェールズの産業が両国の関係を発展させたのです。

ウェールズから日本への輸出は近年著しく増加しており、過去5年間で10億ポンド相当のウェールズ製品が日本へ輸出されています。また、これ以外にも、祝うべき多くの文化的な結びつきがあります。ウェールズと日本に存在する絆は、Brexit後の数年間でさらに重要になり、最近合意された日英貿易協定を通じてより強化されると確信しています。

名誉領事としての私の任務は、日本企業の支援、日本への理解の促進、緊急時の邦人支援、文化イベントの監督、さまざまな組織や地方自治体との友好関係の育成などです。また、在ロンドン日本国大使館とも緊密に連携しています。

2019年から2021年にかけて実施された「Japan-UK Season of Culture」イニシアチブはその好例で、日本の人々からウェールズの人々への友情の贈り物として、ウェールズ各地に1000本の桜の木が植えられました。この木は、未来の世代が支え、楽しむことのできる、私たちの強い友情を示すシンボルなのです。

このレポートを通し、ウェールズでのビジネスチャンスとともに、今後も強化していくべき文化的な結びつきについても理解を深めていただければ幸いです。



右: 在ウェールズ日本国名誉領事Keith Dunn氏と共に首席大臣 Mark Drakeford氏がウェールズに桜の木を正式に植樹

数字で見るウェールズ

人口

310万人

2020*

GDP

£757億ポンド

2021**

デジタル技術系企業

5,075 社

2021†

輸出額

£152億ポンド

2021‡



* ONS
** ONS † Tech Nation 2021 ‡ HM Revenue and Customs

About Wales

ウェールズは、イギリスの南西部に位置する。首都のカーディフは国の南東部に位置し、人口は31万人（2021年）で英国で12番目に大きな都市である。グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国（イギリス）の構成国の一つであるが、イギリスの国政のほかに独自の政府とSenedd（セネズ）と呼ばれるウェールズ議会を持っている。ウェールズ政府は、地域経済、教育、交通、社会サービスに関連する多くの決定を下している。

20世紀の大半は、石炭鉱業、農業、重工業がウェールズ経済の主要産業であった。今日でも製造業はウェールズ経済の主要な部分を占めており、GDPのほぼ3分の1を占めている。電気、自動車、金属、食品・飲料がウェールズの製造業の主要部門である。

ウェールズは大規模な金融、IT、ビジネスサービス産業を発展させ、現在ではGDPの半分以上、雇用の3分の2近くを占めている。これらの産業は、主に南東部のカーディフを中心に展開されている。10億ポンド以上の価値を持つAdmiral Groupをはじめ、カーディフに拠点を置いている保険会社が多く存在する。

ウェールズには、カーディフ大学、アベリストウィス大学、スウォンジー大学など8つの大学がある。これらの学術機関と公共団体、企業との連携は、ウェールズのスタートアップエコシステムにおいて重要な役割を担っている。

Did you know?

ウェールズは、ロンドンに次いで英国で最も急速にFintechが発展している場所である。

(Wales Data Nation Accelerator)

ウェールズ文化入門

ウェールズは、ウェールズ語と英語の2つの公用語を持つバイリンガルの国である。ウェールズ語はすべての学校で教えられており、75万人がウェールズ語を話す。一部の学校ではウェールズ語を主な教育言語として使用している。便利なフレーズとして次のようなものがある：

Bore da (おはようございます)

Diolch yn fawr iawn (ありがとうございます)

Cymru (ウェールズ)

St David's Dayはウェールズの建国記念日であり、ウェールズの守護聖人であるデイヴィッドの命日である3月1日に祝われる。



ウェールズのシンボル

赤い竜 (Y Ddraig Goch) はウェールズの最も有名なシンボルで、1959年以来国旗に使用されている。緑と白のリーキ (西洋ねぎ) は少なくとも16世紀以前からウェールズと関係があり、シェイクスピアの『ヘンリー5世』でもその関係が言及されている。また、水仙は19世紀以降、特に聖デービッドの日 (St David's Day)に関連してウェールズを象徴するようになった。

ラグビー

ラグビーは歴史的にウェールズの国技とされてきたが、現在ではサッカーも同様に人気があり、国民の多くが強い誇りを感じている。ラグビーは1800年代後半から1900年代前半にかけて初めてウェールズで人気を博し、1905年のニュージーランド戦で、ウェールズはスポーツ競技の開始時に国歌を歌った最初の国となった。このスポーツは、1970年代の近代において特筆すべき黄金期を迎え、現在もウェールズのアイデンティティーの代名詞となっている。



風景・景観

ウェールズには、国土の20%を占める3つの国立公園があり、変化に富んだ風光明媚な風景が広がっている。ウェールズには2703kmに及ぶ海岸線があり、絵に描いたような美しいビーチがたくさんある。また、いくつかの山岳地帯があり、中でもスノーニアはウェールズ最高峰の標高1085mのスノードン山 (Yr Wyddfa) を擁することで知られている。

また、ウェールズは世界で最も多くの城がある国でもある。ユネスコの世界遺産に登録されているコンウィ城は、世界遺産間のパートナーシップの唯一の例として、姫路城との姉妹城提携を結んでいる。

ウェールズは英国の他の地域とどう違うのか？

ウェールズのスタートアップエコシステムは、北西部など英国の他の地域よりも最近になって発展したため、投資や高成長企業の数では他の地域から遅れをとっている。しかし、ウェールズは2016年、デジタル経済が最も急速に成長している地域として選出され、最近ではカーディフが英国のトップ10スタートアップハブに認定されるなど、大きな成長を遂げている。

2.6

人口10,000人あたりのスタートアップ企業数¹

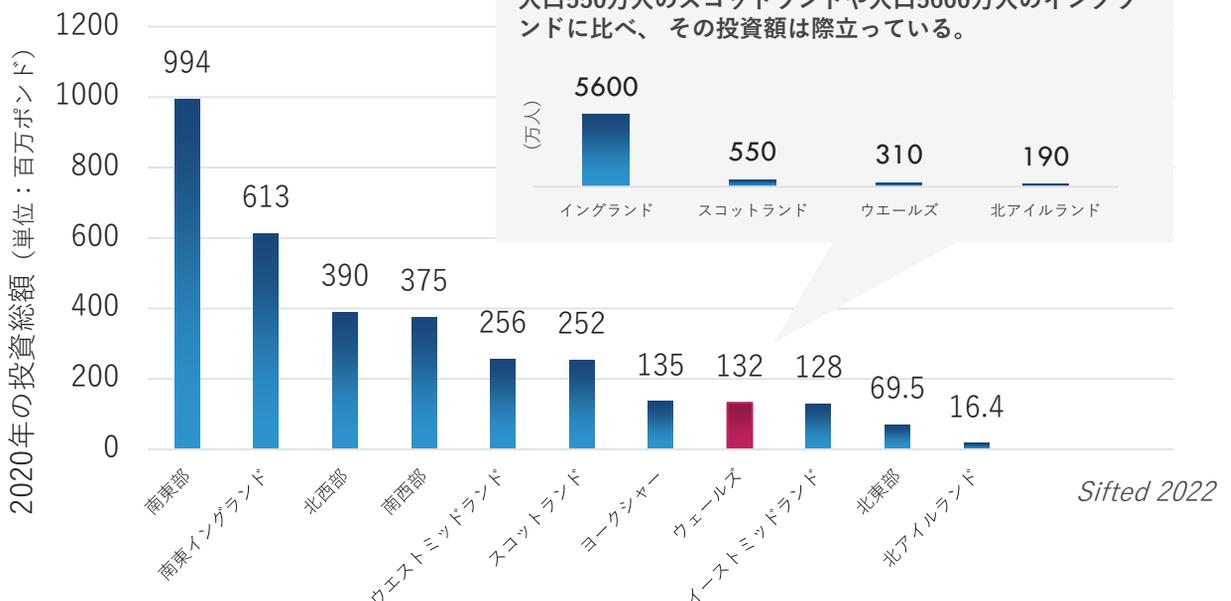
1. Sifted via Dealroom 2021, Gov.uk

7位

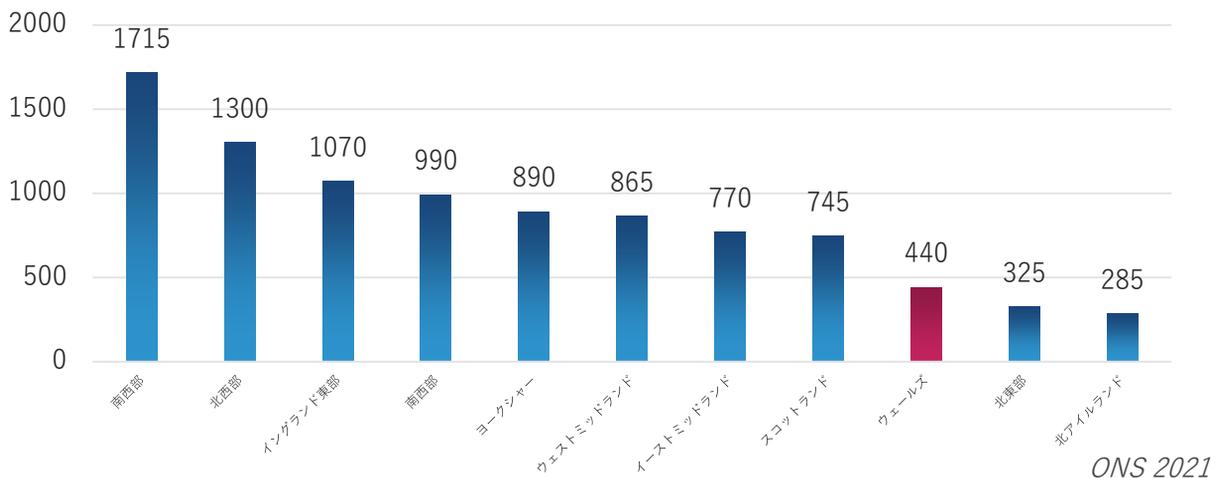
カーディフは、ロンドンを除く英国で7番目に急成長しているスタートアップ都市²

2. Beauhurst analysis

2020年の総投資額



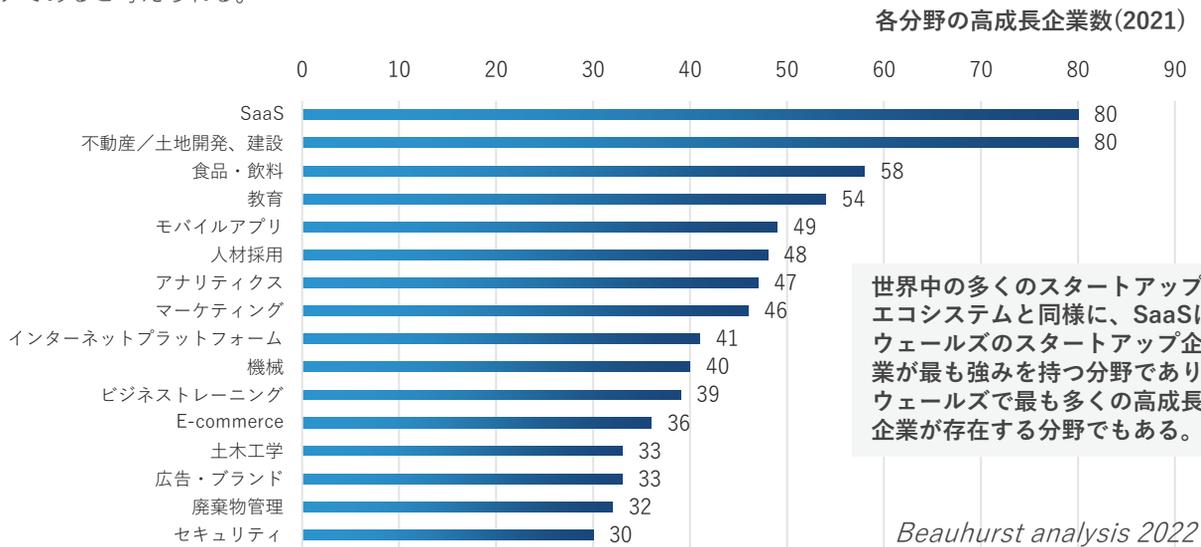
2020年の高成長企業数



ウェールズ経済における高成長分野

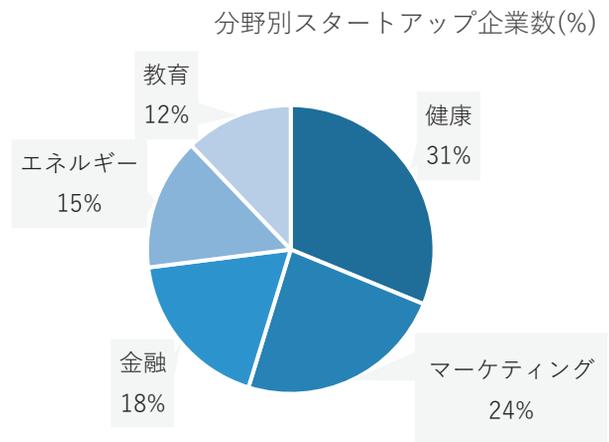
高成長分野のトップ16

下記のグラフは、ウェールズの高成長企業に焦点を当てたものである。高成長企業はスタートアップに限定されるものではないが、その大部分を占めるのは、既存の大企業ではなく、スタートアップまたはスケールアップであると考えられる。



テック系スタートアップ企業数：分野別内訳

Microsoft for Startupsの支援を受けて、最近作成された「[UK Startup Explorer](#)」というマップは、テック系スタートアップを場所と技術分野に基づいてマッピングするものである。これによると、ウェールズではライフサイエンス分野が強く、健康関連のテック企業がウェールズのテック系スタートアップのほぼ31%を占めている。歴史ある金融サービスも、特にカーディフ地域の保険分野を中心に、ウェールズのテック系スタートアップ全体のうち大きな割合を占めている。



ウェールズ経済の注目分野

Wales Data Nation Accelerator

£85億
(GBP)

フィンテック

AdmiralやGoCompareなどの
保険ホットスポット

£24.3億
(GBP)

再生可能エネルギー

業界内の主要企業が
13,000人を雇用

£20億
(GBP)

ライフサイエンス

ウェールズで最も急成長しており
350社で11,000人を雇用

高成長分野のスポットライト

保険

ウェールズの保険業界は主に首都圏のカーディフ周辺に集中しており、1993年に設立された保険会社アドミラル・グループが大きな後ろ盾となっている。カーディフに本社を置く同社は、英国初の価格比較サイトconfused.comやcompare.comなど、保険関連サービスを発展させてきた。これに続き、ニューポートのgocompare.comやディーサイドのmoneysupermarket.comなど、ウェールズに拠点を置く大手保険比較サイトが誕生している。



現在、アドミラル社はウェールズ最大の企業であり、同国で唯一のFTSE100企業である。同社は、革新的な保険商品を提供するベンチャー企業を育成するイニシアチブ、アドミラルパイオニアを立ち上げた。アドミラルパイオニアのポートフォリオには、カーディフのグループ本社に拠点を置く以下の会社が含まれている：

- Veygo – 短期・一時的な自動車保険
- ToolBox – 柔軟な事業保険
- Kooalys – EVへの移行をサポートする全車両向け自動車保険



サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティはウェールズで成長している分野であり、業界の振興と発展を目的としたイニシアチブが複数存在する。2022年5月、ウェールズ政府はサイバー・イノベーション・ハブの立ち上げを発表し、ウェールズ政府、カーディフ首都圏ファンド、エアバス、Tramshed Tech、Alacrity Cyber、CGIなどのパートナーのコンソーシアムから950万ポンド相当の投資を受けた。このプロジェクトは、カーディフ大学により主導される。このハブは、2030年までにウェールズにおけるサイバーセキュリティビジネスの数を50%増やし、1000人以上のサイバー技術者を育成し、2000万ポンド以上のプライベートエクイティ投資を呼び込むことを目標としている。

ウェールズのサイバーセキュリティ業界の主要な指標



Cyber Wales, Welsh Government

サイバーウェールズは、ウェールズのサイバーセキュリティ産業における個人、組織、企業の会員制ネットワークで、定期的な会合やイベントを開催する一連のネットワークグループや「クラスター」を運営している。

クラスターのテーマには、重要な国家インフラ、教育とトレーニング、サイバー分野の女性などがある。



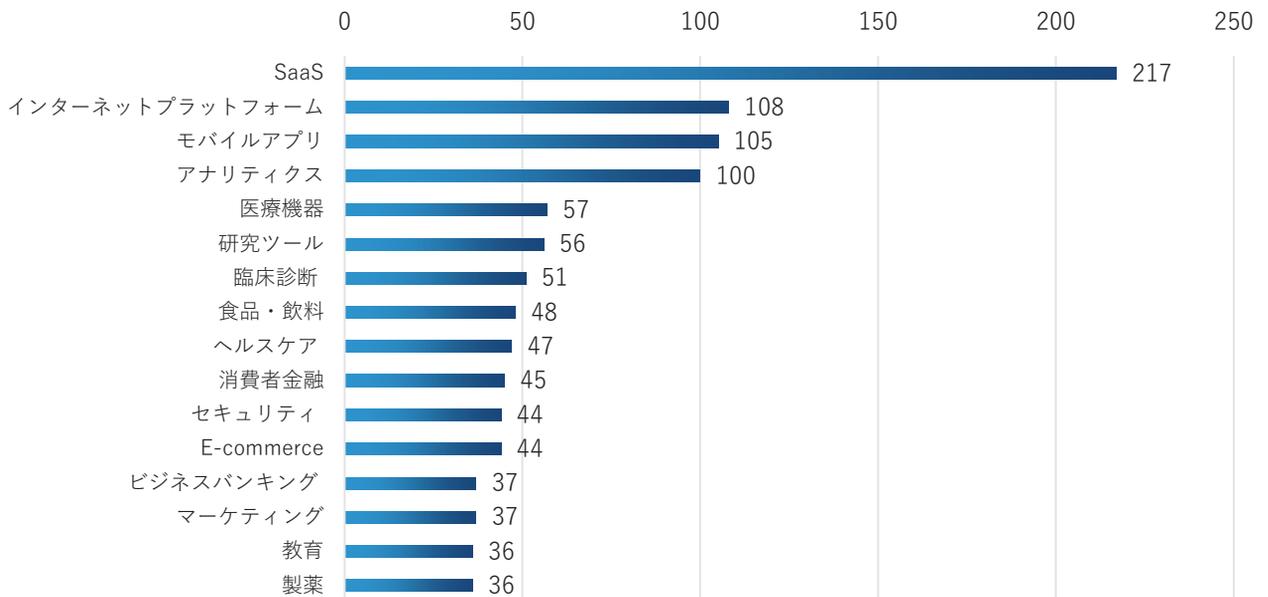
ウェールズには、英国政府の諜報機関GCHQの一部であるナショナル・サイバー・セキュリティ・センターが認定するセンター・オブ・エクセレンスが2つ存在する。1つはカーディフ大学のAirbus Centre of Excellence in Cybersecurity Analyticsで、もう1つはサウスウェールズ大学のAcademic Centre of Excellence in Cyber Security Educationである。

ウェールズへの投資 - 主要分野

2011年から2020年の間にウェールズ企業のエクイティ取引は1201件、総額8億8200万ポンドにのぼった。同期間の平均エクイティ取引額は80万2千ポンド、平均出資比率は18.4%であった。
(Beauhurst analysis 2022)

SaaSは、エクイティ取引の件数、金額ともに大きくリードしている。その他の主な投資対象分野は、アナリティクスと臨床診断である。

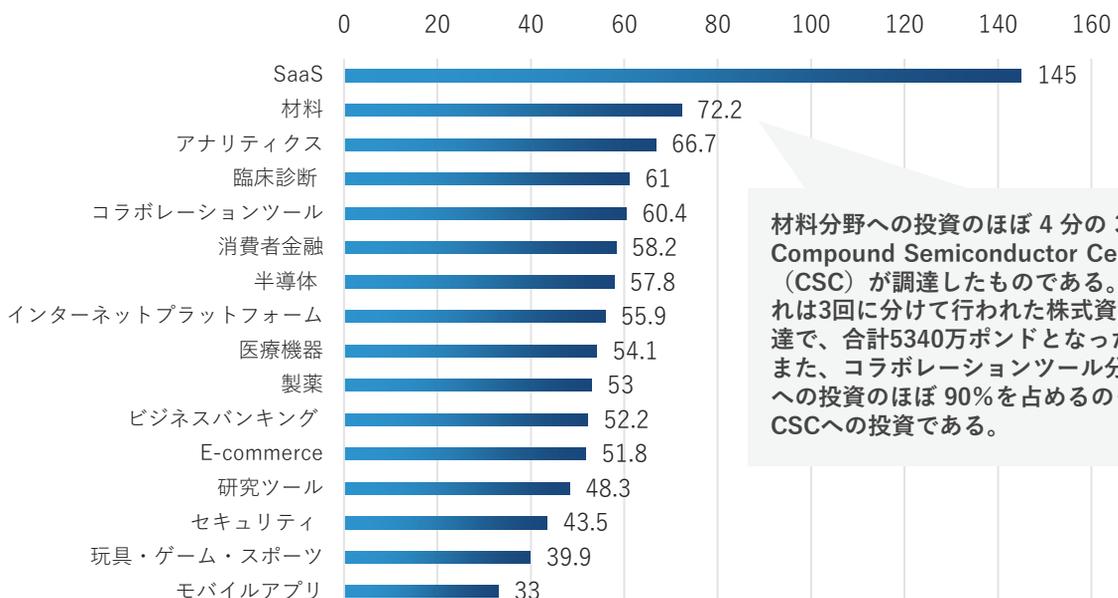
エクイティ取引数で上位の投資先分野



Beauhurst analysis 2022

エクイティ取引額で上位の投資先分野

エクイティ取引の総額(単位：百万ポンド)



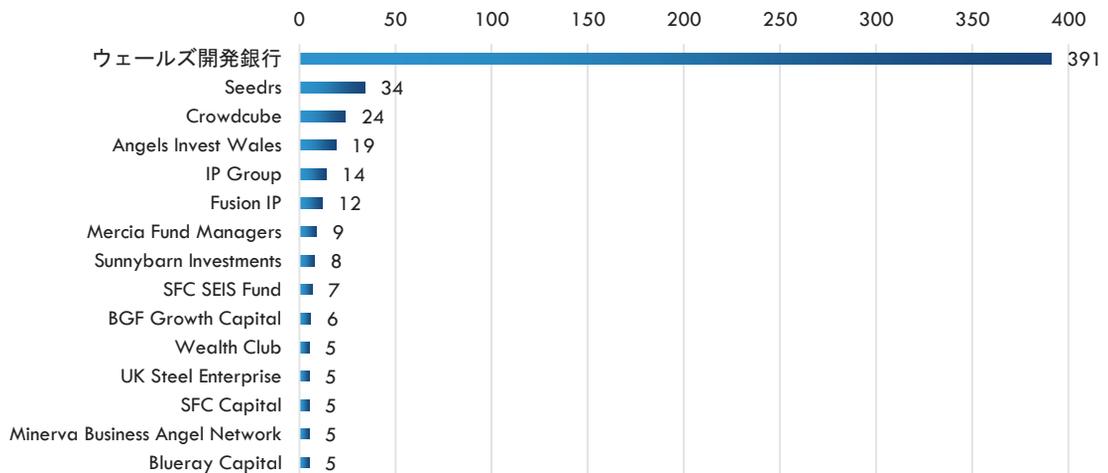
材料分野への投資のほぼ4分の3はCompound Semiconductor Centre (CSC)が調達したものである。これは3回に分けて行われた株式資金調達で、合計5340万ポンドとなった。また、コラボレーションツール分野への投資のほぼ90%を占めるのもCSCへの投資である。

Beauhurst analysis 2022

ウェールズへの投資 - 主要投資家

2011年から2020年の間に210のファンドがウェールズ企業とのエクイティ取引に参加した。ウェールズ開発銀行は、ウェールズの企業に対して圧倒的に積極的な投資を行っており、2011年から2020年の間に391件のエクイティ取引に参加している。同銀行は共同投資ファンドを持ち、IP Group (9件)、Fusion IP (7件)、Wealth Club (4件)などの主要な投資家と協働している。(Beauhurst analysis 2022)

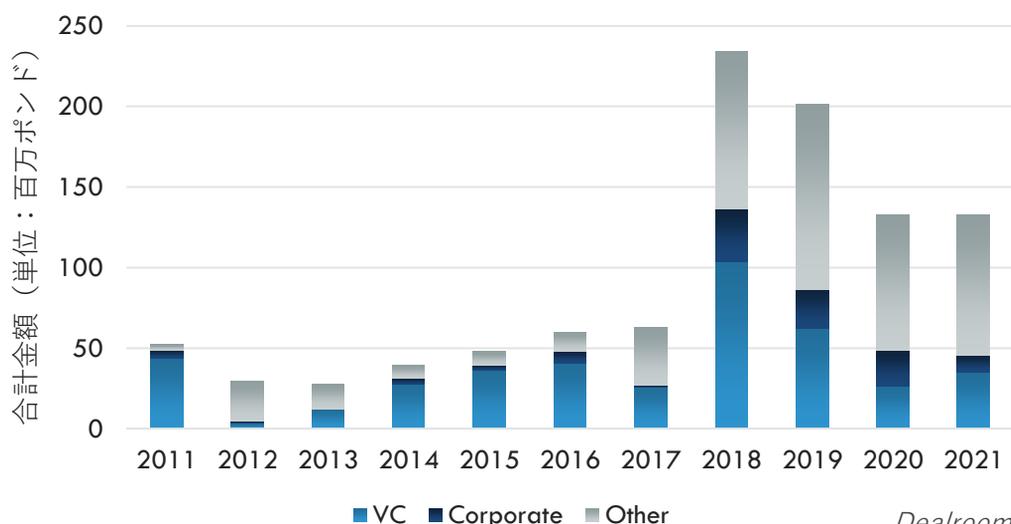
エクイティ取引数別の上位の投資家



Beauhurst analysis 2022

投資家の種類

ウェールズ企業への投資 2011-2021



Dealroom 2022

2017年末にウェールズ開発銀行（Development Bank of Wales）が発足し、従来のVCや企業による投資以外の投資の大幅な増加につながっている。このような新しいタイプの投資家は、現在ウェールズ企業への投資の大半を占めており、過去3年間ではVCが20～30%を占めている。ウェールズの企業への企業投資はより限定的である。



インタビュー ウェールズにおける英国政府

Tom Taylor, Deputy Director – DIT Wales
UK Department for International Trade (DIT)
2022年8月

自己紹介と、ウェールズにおけるUK DITの活動について教えてください。

DIT WalesのDeputy Directorを務めているトムと申します。私たちのチームは2021年9月に発足し、当初7人だったチームメンバーは、12人にまで増えました。私たちのチームは、テクノロジーと先進製造、エネルギーと教育、クリエイティブ産業、農業、食品・飲料といった特定の分野を担当するスタッフと、貿易政策や各種プロジェクトといった横断的なテーマを担当するスタッフにより構成されています。

DITがウェールズに新たな拠点を設けることになったきっかけは何だったのでしょうか。

DITは、ウェールズへの投資、ウェールズにおける雇用、そしてウェールズへの輸出の機会を増やすために、カーディフに貿易・投資ハブを設立しました。この新しいハブは、政府横断的なPlaces for Growthプログラムの一部です。これにより、ウェールズの関係者が貿易政策アジェンダに完全に関与することが容易になり、ウェールズの企業は、日本を含む119の市場をカバーするDITの海外ネットワークに容易にアクセスできるようになります。このようなメリットは、英国内のどこにいる企業でも簡単に利用できるべきです。また、これはウェールズに住む人々が、公務員による多くの国際的サービスにアクセスすることができるようになることも意味します。必ずしもロンドンに移住する必要はありません。

ウェールズ企業にとって、日本との関係で最も大きな機会は何でしょうか。またその逆はどうでしょうか。

ウェールズの企業にとって、日本との関係で最大のチャンスとなるのは、2021年に発効した日英包括的経済連携協定（CEPA）です。この協定は、オープンなデジタル市場、データ経済、デジタル貿易の円滑化、消費者と企業の安全確保を支援する条項で、金融、ハイテク、通信、専門サービス、クリエイティブ産業など幅広い分野の企業を支援しています。

英国と日本は互いの国への最大の投資家の一つであり、両国間での投資総額は約1000億ポンドにのびます。この協定はこのような投資を支援し、互いの市場におけるビジネスを容易にする条項を通じて、互いの国の企業が貿易と投資を行う新たな機会を創出するものです。日英包括的経済連携協定は、2021年時点でGDP9兆ポンド相当の貿易圏であるCPTPPへの英国の加盟に道を開くものであり、日本は英国の加盟プロセスの議長国を務めます。7月、英国は東京でCPTPPの全加盟国との直接交渉に参加し、年内の加盟という野心的な期限に向けて順調な進展を遂げました。

私たちは今後数カ月間、加盟国との交渉を続けますが、英国全体にとって有益な協定にのみ調印する予定です。CPTPPを英国に拡大することは、より容易に企業が国境を越えて取引し、重要なサプライ・チェーンをオープンで予測可能な状態に保つのに役立つでしょう。

日本企業がウェールズに投資する場合、ウェールズには高い潜在的可能性がある2つの分野があります。

まず、化合物半導体クラスターでは、2024年までに2300億ポンド規模まで増大すると予測される化合物半導体関連技術に対する世界的な需要に対応するためのエンドツーエンドの機会を企業に提供します。

次に、ウェールズの医療技術部門は、神経科学、神経変性、認知症、がん、創傷治療、組織再生などの分野で、新しい破壊的な医療・ヘルスケア技術を共同開発し、商業化する具体的な商機を企業に提供します。

読者に届けたいメッセージはありますか？

DITウェールズは、日本から英国への進出を目指している企業や、ウェールズから日本への商品・サービス輸出を目指している企業など、皆様のビジネスを応援しています。ぜひお気軽にご連絡ください。



インタビュー ウェールズの起業家精神

Dylan Jones-Evans, OBE
Chair in entrepreneurship, University of South Wales
2022年7月

あなた自身について、またウェールズでの起業活動への関わりについてお聞かせください。

私はさまざまな仕事をしていますが、フルタイムの仕事としては、サウスウェールズ大学にて企業とプロフェッショナルの起業家精神を専門とする副学長補佐を務めています。私は30年間学者として、そのうち26年間は教授として、主にウェールズで活動してきました。その他の活動としては、2016年にWelsh National Start Up Awardsを創設しました。また、24年間続いている「Wales Fast Growth 50」の生みの親でもあります。今では674社がそれに名を連ね、4万人の雇用が生まれ、毎年270億円の売上高となっています。

現在、ウェールズのエコシステムの中で特に面白いと思う分野はありますか。

ウェールズは、伝統的な分野でイノベーションを起こそうとしている企業の開発に特に優れています。例えば保険の分野で、Admiralのように英国で最も成功している企業を輩出できたのはこのおかげです。少し変わった例としては、Drop Bear Breweryがあります。同社は現在、英国でトップクラスのノンアルコールビールメーカーで、ウェールズで初めて「B-Corp」認証を取得した企業でもあります。優秀なスタートアップ企業というだけでなく、多様性と持続可能性を事業の中心に据えているのは素晴らしいことです。

ウェールズでは、FinTechも盛んに宣伝されていますが、まだその宣伝文句を信じるべきではないと思います。サイバーセキュリティも同様です。しかし、メドテックは予想以上に好調であり、その理由は、大学での研究成果にあります。中には驚くべきような素晴らしいものもありますが、更なる成長には、真の投資が必要となります。

今後、ウェールズの起業家エコシステムに期待することは何ですか。

現在、起業している学生は学生全体の0.2%に過ぎません。大学にはもっと頑張ってもらい、起業を促進するような取り組みをしてほしいと思います。この比率が1%でも上がれば、ウェールズに1,300の新しいビジネスが生まれることとなります。先進国では、創業5年未満の企業が正味で雇用すべてを創出しているのです。また、イングランド北部など英国の他の地域で構築されているベンチャーエコシステムがウェールズにはまだないため、より多くの資金調達も奨励する必要があります。

ウェールズと日本が協力する機会はあると思いますか？

私は学者として、国際交流がアイデアや技術を共有し、新しい方法で問題に取り組む方法を学ぶための素晴らしい方法であることを直接見てきました。この経験から、単にウェールズの企業と話をすることも、双方にメリットのあることが見つかるかもしれないと考えています。また、2つ目のポイントは、市場開拓の機会です。ウェールズの革新的なスタートアップ企業が日本に進出したり、逆に日本企業がウェールズに進出することが考えられます。

さらに、ウェールズは、カーディフにあるIQEクラスターを中心とする化合物半導体分野や、保険分野の主要地域となっています。この2つの産業は、ウェールズが世界トップクラスの実力を誇る分野であり、人口300万人の小国としては素晴らしい成果を生み出しています。ウェールズは、これらを活用する方法を常に模索しており、もちろん、この2つの分野は日本ともうまくクロスオーバーしています。これは両国にとって素晴らしいチャンスになると考えています。

ウェールズの大学

8 ウェールズの大学数

10万 ウェールズの大学の学生数
(2020-21年)

ウェールズの大学が強みを持つ分野

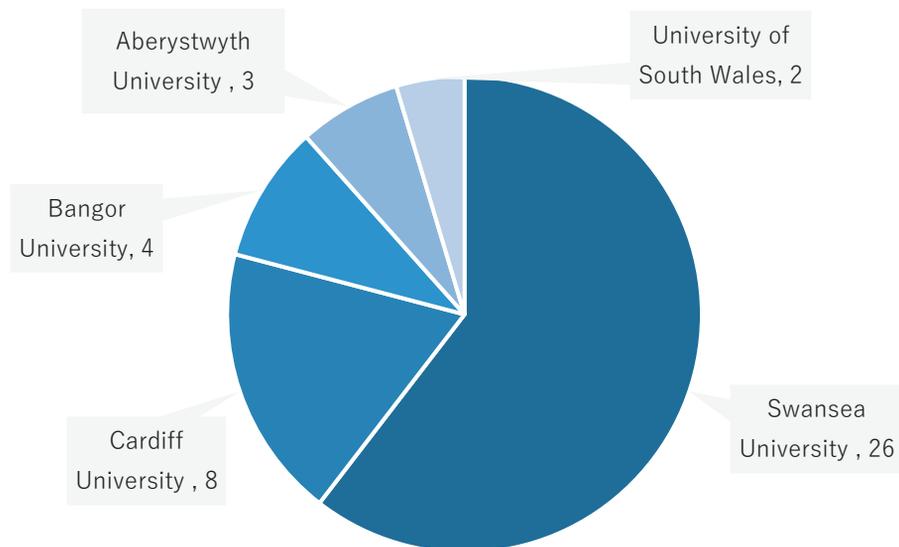
ヘルスケア

環境科学

エンジニアリング

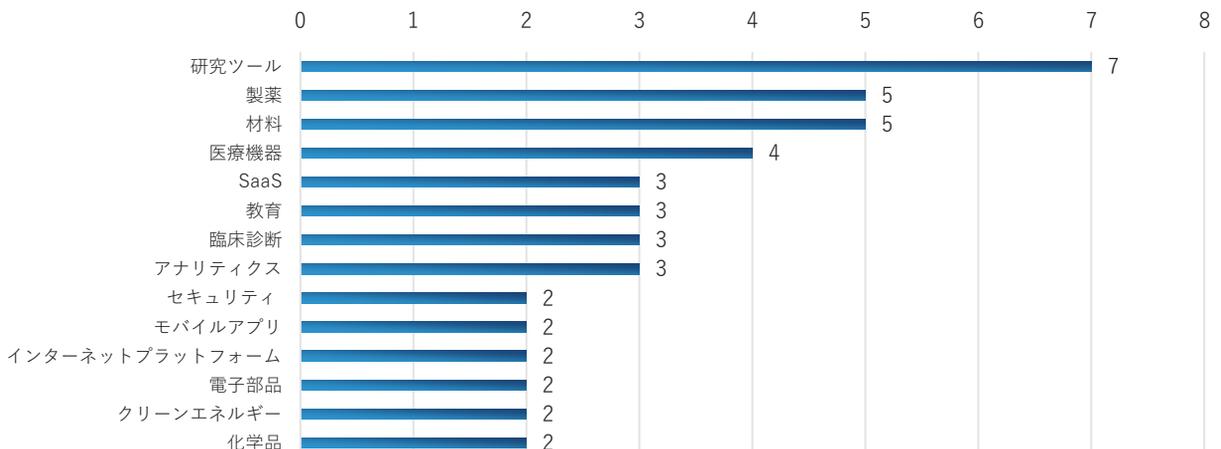
大学発スタートアップが生まれた主な大学

Beauhurst の「High-Growth Ecosystem in Wales 2021」のレポートによると、ウェールズの大学発のスタートアップ企業のうち、2021年の時点で高成長企業に分類されるものは43社あった。その大半はスウォンジー大学から生まれたものである。(Beauhurst, High-Growth Ecosystem in Wales 2021)



Beauhurst, High-Growth Ecosystem in Wales 2021

大学発スタートアップの主要分野



ウェールズの大学 – 概観



設立: 1872
 学生数: 6,060
 英国ランキング: 38
 世界ランキング: 541
 強い科目: 生物学、環境科学、地理



設立: 1884
 学生数: 9,000
 英国ランキング: 64
 世界ランキング: 601
 強い科目: 環境科学、エンジニアリング



設立: 1883
 学生数: 26,805
 英国ランキング: 35
 世界ランキング: 151
 強い科目: エンジニアリング、メディア、コミュニケーション



設立: 2011
 学生数: 9715
 英国ランキング: 79
 世界ランキング: -
 強い科目: スポーツ科学、エマージングテクノロジー



設立: 1920
 学生数: 18,500
 英国ランキング: 39
 世界ランキング: 440
 強い科目: 材料、ヘルスケア、環境科学



設立: 2008
 学生数: 2750
 英国ランキング: 110
 世界ランキング: -
 強い科目: 環境科学、農学



設立: 2013
 学生数: 16,555
 英国ランキング: 99
 世界ランキング: -
 強い科目: ヘルスケア、クリエイティブ産業



設立: 2010
 学生数: 10,245
 英国ランキング: 83
 世界ランキング: -
 強い科目: エンジニアリング、コンピューティング、ファインアート

ウェールズの大学：スタートアップエコシステム活動

ウェールズの大学は、スタートアップエコシステムにおいて、スピナウト、アクセラレータ、インキュベータプログラムの支援や、産学連携など非常に積極的に活動している。国内の多くの主要なイノベーション・テクノロジー・ハブやスキームは、一つ以上の大学がバックアップしている。このページでは、大学による主な取り組みを紹介する。



研究・ビジネス・イノベーション部門による活動の一環として、スピナウトやスピニンを奨励するためのスタートアップ・ビジネス支援サービスを展開。

バイオテクノロジーや生物科学分野のスタートアップ企業にワークスペースやネットワーク、サポートを提供するインキュベーター、**AberInnovation**プロジェクトに参画。



Angleseyにある**M-Sparc**サイエンスパークとインキュベーター施設を運営、40以上のスタートアップ企業や中小企業のテナントにラボや作業スペース、サポートを提供。

M-Sparcを拠点とした5ヶ月間のアクセラレータプログラム「**Level Up**」を運営し、成功した参加者に資金を提供。



メディカルスクールエンタープライズ・イノベーションセンターは医療系スタートアップのためのインキュベーターとビジネスサポートを提供。

インキュベーション施設では科学技術系企業のためのラボ、設備、トレーニング、技術サポートへのアクセスが可能。



Cardiff Medicentre は Cardiff and Vale University Health Board と提携したバイオテック・メドテックスタートアップ向けのハブ。

Airbusとの産学連携による**Endeavr**アクセラレータ・スキームの運営。

Life Sciences Hub: Accelerateプログラムの一環として「**Clinical Innovation Accelerator**」に参画。



USW Startupは、大学でスタートアップを設立する学生を奨励および支援するために設立された、専任の起業家専門部門である。

Startup Stiwdioは、ワークスペース、ネットワーキング、ビジネスサポートを提供するインキュベータ施設。

大学間共同研究

Life Sciences Hub – ライフサイエンス分野のアクセラレータとネットワーク（カーディフ大学、スウォンジー大学、トリニティ・セント・デイビッド大学）

Data Nation Accelerator – データサイエンスイノベーションにおける22のプロジェクト（カーディフ大学、スウォンジー大学、アベリストウィス大学、バンゴ大学）

ASTUTE2020 – 製造革新産学連携プログラム（カーディフ大学、スウォンジー大学、USW大学、トリニティ・セント・デイビッド大学）



インタビュー

Menai Science Park (M-SParc)

Emily Roberts
International Representative, Japanese market
2022年7月

M-SParcの紹介と、ウェールズのエコシステムにおける役割について教えてください。

M-SParcは、ウェールズ初のサイエンスパークで、現在約40社がここに拠点を置いています。このパークは低炭素、エネルギー・環境、ICT、デジタル、ライフサイエンスといった分野向けに設立されました。M-SParcの主な目的は、ここ北ウェールズの経済的な多様性を推進することです。なぜなら、パークが作られた2018年時点では、北ウェールズの平均賃金はウェールズ内で最も低く、役割に多様性がなく、本当に高水準な雇用がなかったからです。

2018年に開設してから、テナントの平均賃金は、ウェールズ全体の平均を5,000ポンド上回っています。つまり、優れた企業をここに誘致し、真の高付加価値雇用を生み出すという当初の目標は、すでに達成され始めているのです。また、テナントの多くは、M-SParcに参加するためにウェールズに進出してきた企業ではなく、ウェールズ人が創業しこの地で発展させてきたウェールズ企業です。今では本当に素晴らしいエコシステムの中で地位を確立するための拠点となっています。

サイエンスパークに入居を決めた企業には、どのようなメリットがあるのでしょうか。

私たちは場所を提供しますが、それだけではありません。ビジネスサポートや、企業の発展・成長に役立つサービスへのアクセスを提供しています。さらに重要なことは、すべてのテナントが本当に素晴らしいコミュニティの一員になれるということです。

最初は、他の企業にアイデアを盗まれるのではないかと、企業同士で話すのをためらっていましたが、驚くほど態度が変わってきて、今では助成金を申請して一緒にプロジェクトを行うなど、企業同士が密接に連携しています。現在では、サイエンスパーク内の約15%の企業が、パーク内の他の企業に直接サービスを提供しています。最後に、私たちは企業がこの地域にすでに存在する支援とリンクできるように、Global Welsh、Angel Invest、Development Bank of Walesなどの組織と協力し、より広いエコシステムへのアクセスも支援しています。

現在、サイエンスパークで特に力を入れている分野、注目している分野は何ですか。

ライフサイエンスは私たちが得意とする分野であり、アグリテックもまた興味深いトレンドとなっています。しかし現在、私たちのテナントのほとんどは、デジタル部門に属していると捉えていると思います。スキルギャップを埋めるために、私たちは彼らと緊密に協力しています。なぜなら、彼らの多くはディベロッパー、フロントエンドディベロッパー、Webディベロッパーを求めている一方、そのようなスキルはまだこの地域にないからです。

サイエンスパークが日本と密接に連携する余地はあるとお考えでしょうか。

もちろんです。私たちは海外からのビジターを多く受け入れており、パンデミックの直前には日本からも研究者の派遣団を受け入れました。パークで行われている「デジタルシグナル処理」の研究に加え、AIやVRなどの分野にも多くの関心が寄せられました。また、2022年9月には、日本への派遣団を組織する予定で、とても楽しみにしています。ウェールズに興味をお持ちの日本の方に言いたいのは、文化的に異なるイギリスですが、実は日本のビジネススタイルと共通する部分も多いということです。ですから、ぜひ実際にお越しいただいてその共通点をご覧ください、一緒に協業のための方法を探索していきたいと思います。

支援機関

ウェールズのエコシステムは、資金提供団体、アクセラレータープログラム、インキュベータ、クラスターなどのネットワークによって支えられており、これらの大半は、ウェールズ政府、英国政府、大学によって支援を受けている。このセクションでは、4つの主要な組織を紹介する。

Investor



Development Bank of Wales

設立: 2017

Finance Wales、Welsh Governmentの他、複数の公的・民間投資家の支援を受けている。

活動: ウェールズ開発銀行 (Development Bank of Wales) は、12のファンドで10億ポンドの公的・民間資金を運用している。中小企業には1000ポンドから1000万ポンドまでの融資を、スケールアップ企業には5万ポンドから5百万ポンドまでのエクイティファイナンスを提供している。また、共同投資プログラムも運営しており、IPグループなど他の投資会社から資金を集めている。さらに、250人以上の個人投資家のネットワークであるAngels Invest Walesを運営し、800万ポンドの共同投資ファンドを保有している。

Science Park



M-SParc

設立: 2018

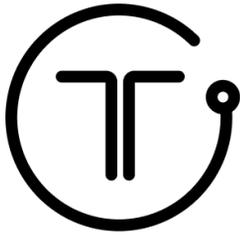
Bangor Universityの支援を受けている。

活動: ウェールズ北西部のAngleseyにある科学技術パークで、アーリーステージのスタートアップ企業やスケールアップ企業にワークスペースやラボ施設を提供し、ビジネス開発支援やネットワークへのアクセスを提供している。M-SParcのテナントは、ウェールズ政府の資金調達の優先対応やローン金利の引き下げ、ビジネスレートの軽減などの特典を受けることができる。

M-SParcは、ワークスペース施設に加えて、Egni (低炭素・エネルギー革新)、Clwstwr Agritech (農業技術革新クラスター)、Skills Academy (トレーニングおよびビジネススキル支援) などのプログラムも運営している。また、このサイエンスパークには、「Level Up」と「Accelerate」という5ヶ月間のアクセラレータープログラムがあり、成功した卒業生には資金提供が行われる事もある。

支援機関

Incubator



Tramshed Tech

Tramshed Tech

設立: 2016

Google for Startups, Barclays Eagle Labs の支援を受けている。

活動: Tramshed Techは、現在CardiffとNewportに3つの拠点をもち、Barry、Swansea、Newportに追加のセンターを開設する予定のインキュベーター・スキームである。スタートアップやスケールアップ企業にコワーキングスペース、ビジネス開発サポート、メンター制度などを提供している。Tramshed Techは、テクノロジー、デジタル、クリエイティブ産業のスタートアップ企業を対象としている。

Tramshed Techは、企業パートナーとの協力のもと、創業者を支援するためのトレーニングプログラムも提供している。この中には、Googleが支援し、Eagle Labsのメンターが参加するStartup Academyもある。これは12週間のプログラムで、新しい起業家がビジネスを立ち上げるために必要なスキルを身につけることを目的としている。

Accelerator



FinTech Wales Foundry

設立: 2021

FinTech Wales, Admiral Financial Services, Cardiff Capital Region の支援を受けている。

活動: ウェールズで急成長している金融業界を盛り上げるために設立された非営利団体FinTech Walesが運営するFinTechスタートアップのためのアクセラレータプログラム。このプログラムは、アーリーステージの企業のスケールアップと資金調達を支援するための12週間のプログラムで構成されている。

FinTech Wales Foundryは自ら投資することはないが、プログラムの一環として、参加者が外部資金にアクセスするのをサポートする。卒業生は、VCやエンジェルから900万ポンドの資金を調達している。

支援機関

Community



Global Welsh

設立: 2012

Development Bank for Wales, Bangor University, Welsh Rugby Union の支援を受けている。

活動: Global Welshは、ウェールズを国際的に宣伝し、経済成長を促進することを目的とした非営利団体である。この組織は、ウェールズに関係を持つ世界中の人々の会員制ネットワークを運営し、最終的にウェールズの人々と企業を結びつけることを目的としている。

その他の主な活動としては、ビジネスディレクトリ、コラボレーションとネットワーキングのためのビジネスハブ、キャリアと採用のサポート、ビジネスリーダー向けの年次イベント、マスタークラスやワークショップなどがある。

ウェールズで注目のイベント

Wales Tech Week (次回は2023年3月)

ウェールズのテクノロジーエコシステムを促進するために毎年開催される5日間のイベント。Innovate UKの協力のもと、Technology Connectedが運営。

Wales Startup Awards (直近では2022年6月・7月開催)

ウェールズの中小企業の功績を称える授賞式で、メドテック、フィンテック、デジタルなどの分野別に優秀なスタートアップに賞が授与される。

Wales Technology Awards (次回は2022年9月に開催)

Wales Tech Weekと同様に、この授賞式はウェールズのテクノロジー産業のネットワークであるTechnology Connectedによって運営されている。ソニーのUKテクノロジーセンターは、本アワードのアソシエイトパートナーである。

その他の注目イベント

2022年7月/8月	Start up to Scale up: Business Wales によるスタートアップ企業向け成長プログラム
2022年9月8日	Federation of Small Businesses – South Wales Conference 2022
2022年9月16日	FinTech Awards Wales 2022
2022年10月4日	The Welsh Business Show – Swansea
2022年10月13日	Health and Care Research Wales conference 2022
2022年11月11日	Cardiff Business Awards 2022



インタビュー

The Development Bank of Wales

Duncan Gray
Director of Technology Ventures Investments
August 2022

ウェールズ開発銀行（The Development Bank of Wales）設立の理由や業務内容について教えてください。

ウェールズ開発銀行は、ウェールズ政府によって2017年に設立されました。民間資金と政府系資金を混合したファンドにより、企業が起業、強化、成長に必要な資金を得やすくすることで、ウェールズの経済をサポートすることを目的としています。私たちは、持続可能で効果的な金融の提供を市場で拡大することにより、ウェールズ経済の潜在力を引き出したいと考えています。あらゆる事業段階において、1,000ポンドから1,000万ポンドの資金を、場合によっては最長15年間にわたり、柔軟に提供します。

投資に関して、またはウェールズにおける成功にはどのようなものがありますか。

過去5年間、ウェールズ開発銀行は3,000以上の企業を支援し、全体として12億ポンドの経済効果を上げています。ウェールズの企業に対する5億2800万ポンドの直接投資と、民間部門からの3億8000万ポンドの共同投資により、32,000人以上の雇用の創出と保護に貢献しています。私たちは、ウェールズ全土のコミュニティに与えた経済的、社会的、環境的インパクトを誇りに思っています。ポーハースト社の調査によると、ウェールズの企業は近年、記録的な水準の投資を集めており、2020年だけでもスタートアップ企業やスケールアップ企業によって1億2900万ポンドが調達されています。また、ウェールズ全土で企業が激増しており、ウェールズの高成長企業の69%が、カーディフとスウォンジーという伝統的なビジネス拠点以外に拠点を置くようになりました。

最近ウェールズで発展している、人々が知らないような「新しい」分野はありますか。

ウェールズ開発銀行は、ウェールズの企業を分野を問わず支援していますが、特にテクノロジー分野の強化を実感しています。これはウェールズの高成長企業の28%を占める主要なセクターとなっています。中でも、ウェールズはサービス型ソフトウェア（SaaS）企業の重要な拠点として成長しており、2011年以降、SaaSのスタートアップ企業やスケールアップ企業が1億4500万ポンドを調達しています。その他、ウェールズでも最も人気のある分野として、不動産・土地開発、食品・飲料加工業者がテクノロジーに僅差で続いています。

日本にはどのようなビジネスチャンスがあるとお考えですか。

ウェールズには、資金、才能、サポータティブなエコシステムがあります。過去10年間、ウェールズ開発銀行はテック系スタートアップ企業に1億ポンド以上を投資し、さらにそれらの企業に2億ポンドの共同投資を誘致してきました。これらの企業は、財務面、技術面のサポートと、役員レベルの専門家による支援を受け、一流大学卒の質の高い人材の採用にも成功しています。また、ニューポートのNewport Wafer Fabなどのリソース・ネットワークにアクセスできることも、企業にとって大きなメリットです。仕事以外でも、ウェールズは生活の質が高く、英国の他の地域や遠く離れた地域とのつながりも良好です。

ウェールズ開発銀行は、ベンチャーキャピタルファンド、企業、ビジネスエンジェル投資家など、様々な投資家と共同投資を行っています。過去には、事業への共同投資家として、また投資先企業との販売代理店契約を通じて、日本企業との協働も行った経験があります。

ウェールズに関心を持つ日本企業へのメッセージをお願いします。

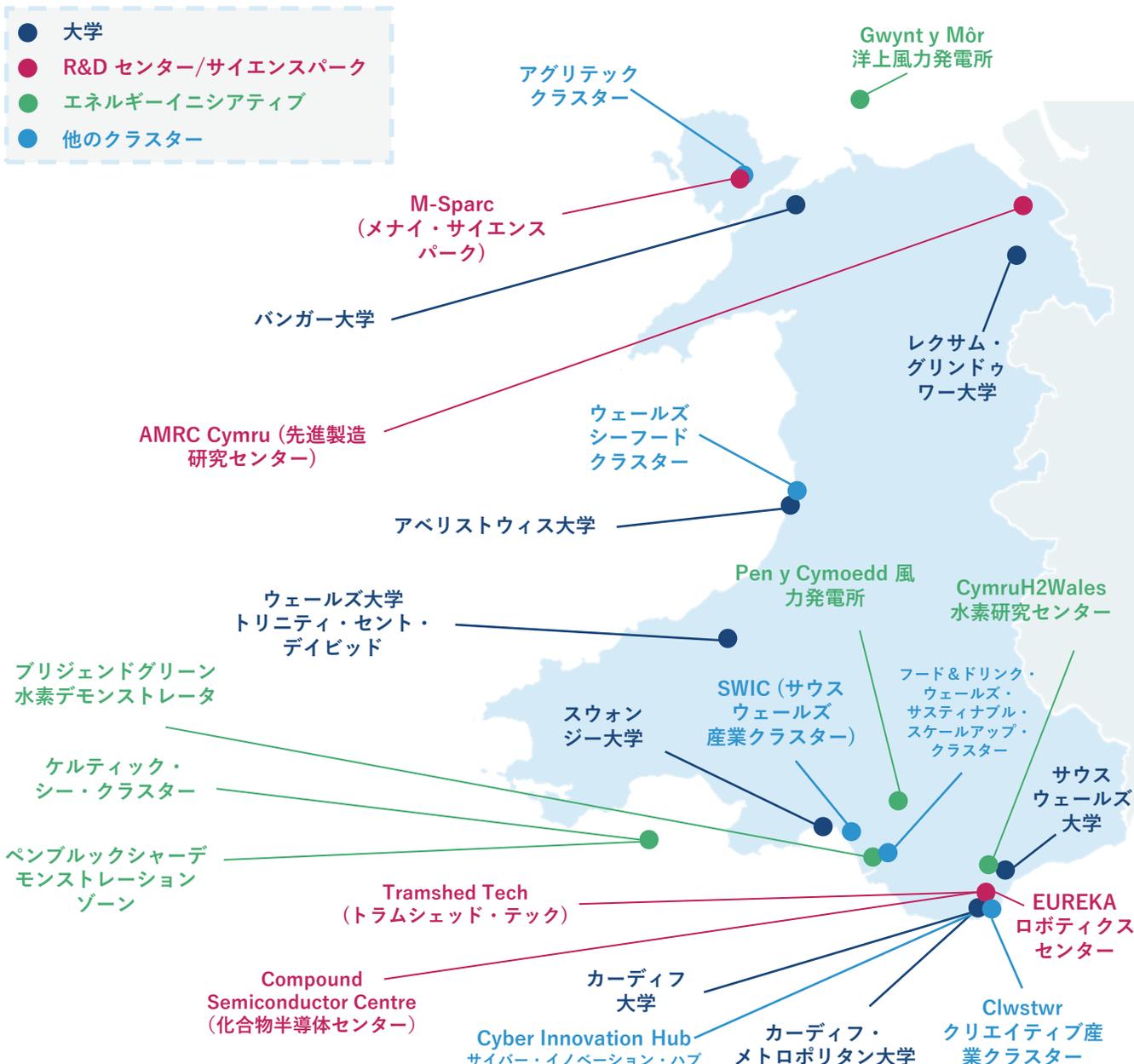
ウェールズには、幅広いセクターと発展段階にあるテクノロジー・ビジネスの強力な基盤があります。ウェールズ開発銀行はそのような企業の支援に努めており、企業への投資、協業、買収を希望する日本企業との協働について喜んで議論させていただきます。

北九州市との連携可能性

ウェールズと北九州市は、歴史的にも、また現在も多くの類似点があり、共通の基盤産業が多くある。両地域は、鉱業や海洋産業、そして製造業の歴史を持ち、最近ではエネルギー分野での活動拡大に大規模な投資を行っている。ウェールズは2016年に世界第5位の電力輸出国であり、国内で発電されるエネルギーの51%は再生可能エネルギーであると推定されている。また、両地域は、半導体やロボットなど先端技術の研究開発の中心地として位置づけられており、地元の大学や研究機関と連携して運営されるサイエンスパークや研究クラスターが設立されている。

以下のマップは、ウェールズの主な教育機関、研究センター、クラスター、革新的な活動をまとめたものである。これらの多くは、北九州市の重要な産業や重点分野と重なっている。

¹Energy Generation in Wales report 2019



北九州市との連携可能性 – 分野別 (I)

風力発電

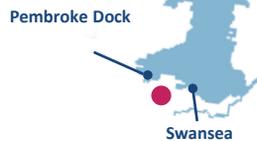
北九州港は風力発電の拠点に指定されており、国内の風力発電産業の中核的な拠点となることを目指している。ここでは、浮体式風力発電を含む洋上風力発電に最適な条件が整っている。ひびき洋上浮体式風力発電実証機は2019年から稼働している。



ペンブルックシャーデモンストレーションゾーン

ペンブルックシャーデモンストレーションゾーンは、ウェールズ南西部沖のケルト海に位置している。波力発電所に加え、30MWの浮体式風力発電施設も設置される予定である。このプロジェクトはまだ計画・開発段階であり、Celtic Sea Powerが運営し、欧州開発基金（European Development Fund）とスウォンジー湾地域の経済発展を支援する投資プログラムであるSwansea Bay City Dealから一部資金援助を受けている。

場所



主要なプレーヤー



半導体

北九州市は、半導体をはじめとする製造業が盛んである。北九州学術研究都市には、半導体センターがあり、地元の大学や電子産業界と連携して研究開発を行っている。



CSCConnected: 化合物半導体クラスター

CSCConnectedは、研究開発組織、製造業者、サプライチェーンを構成するメンバーからなる世界初の化合物半導体クラスターである。クラスターのメンバーには、化合物半導体研究所（ICS）、EPSRC Compound Semiconductor Hub、そしてパワーエレクトロニクス、RF・マイクロ波、フォトンクス、アドバンストパッケージングの4分野で化合物半導体の新しいアプリケーションを開発・商業化するCompound Semiconductor Applications Catapultなどが含まれる。

場所



主要なプレーヤー



北九州市との連携可能性 – 分野別 (II)

水素

北九州市では、市内の実証区域に大規模な水素パイプラインが敷設され、公共施設や住宅に水素設備が設置されている。北九州市は、水素プロジェクトの開発・実証を目指す企業にとって、理想的な実験場と位置づけられている。



ロボティクス

北九州学術研究都市にある北九州市ロボット・DX推進センターは、IoTやロボット技術の産業への導入を検討している地域の企業に対して、ワンストップサービスを提供する役割を担っている。同施設では、コンサルティングサービスのほか、技術の導入を促進するためのテストやトレーニングも提供している。



CymruH2Wales

CymruH2Walesは、グリーン水素ソリューションと燃料電池技術を研究開発するプロジェクトで、サウスウェールズ大学と同大学にあるSustainable Environment Research Centre (SERC) が運営している。このプロジェクトは、ウェールズがグリーン水素の分野で専門性を高め、水素技術、製品、サービスのリーダーとなることを目的としている。このプロジェクトは、ウェールズの再生可能エネルギーおよびクリーンエネルギー戦略の一環であり、ウェールズの複数の大学が協力する2400万ポンドの研究プログラムFLEXIS (Flexible Integrated Energy Systems) の一部でもある。

場所



主要なプレイヤー



EUREKA Robotics Centre

EUREKA Robotics Centreは、カーディフメトロポリタン大学の一部であるCardiff School of Technologiesのコアリサーチクラスターである。センターには2つのラボがあり、50台以上のロボット、シミュレーター、専門的なAIソフトウェア、モデリングツールなどを備えている。サービスロボット、社会的ヒューマノイドロボット、モバイルロボットを専門としており、ロボットの応用を促進し、この分野での研究開発を支援することを目的としている。また、ロボットや関連技術の導入を検討している企業に対して、トレーニングやコンサルティングを提供している。

場所



主要なプレイヤー



Cardiff
Metropolitan
University

Prifysgol
Metropolitan
Caerdydd



Bwrdd Iechyd Prifysgol
Caerdydd a'r Fro
Cardiff and Vale
University Health Board



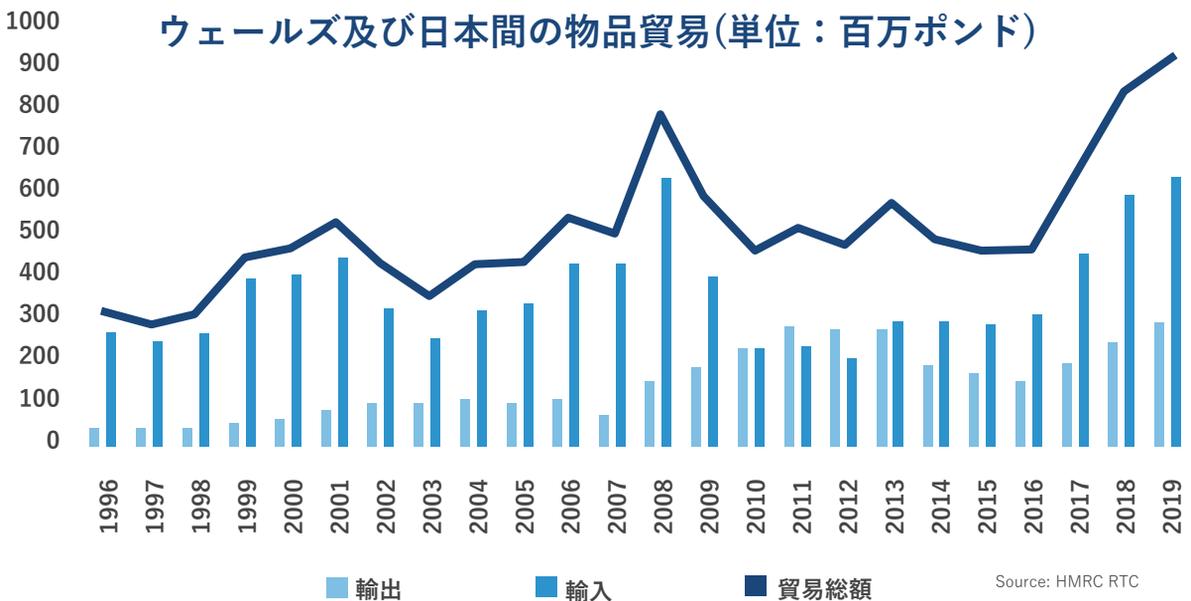
日本とウェールズとの強固な関係

ウェールズは、北九州市と基幹産業が類似していることに加え、歴史的に日本と強いビジネス関係を広く有している。

例えば、ソニーはウェールズで50年の歴史を刻もうとしている。1973年、Bridgendにソニーのテレビ製造工場が開設されたのに続き、1992年にはエリザベス女王陛下によって同社の英国テクノロジーセンターが開設された。Pencoedにある30,000m²のこの建物は、現在、放送・業務用カメラやシステムなどのハイテク製品の製造を中心にしているが、32の関連スタートアップ企業も収容している。

また、正田醤油、カルビー、河西工業、ユアサなどの企業も、長期的にこの地に拠点を構えている。現在、ウェールズには約60社の日本企業が進出しており、約8,400人の雇用を生み出し、直接・間接的にウェールズ経済に大きく貢献している。

2019年時点のウェールズの日本への物品輸出額は約2億9600万ポンド、日本からの輸入額は約6億3900万ポンドである。これはウェールズの物品輸入総額の約3.5%を占め、日本はウェールズの第6の輸入相手国となっている。



このほか、2018-19年のウェールズへの海外直接投資では、日本はフランス、ドイツと並んで第3の投資額を記録した。ウェールズでは、1980年代初頭から毎年平均して7件の日本企業による投資が行われている。

日本の林肇英国大使が2021年に初めてウェールズを訪問した際、ウェールズの首席大臣 Mark Drakeford氏は、「ウェールズと日本は貿易、研究開発、教育、文化において強いつながりを持ち、深い友情があります。林大使のウェールズへの初訪問を歓迎します。」

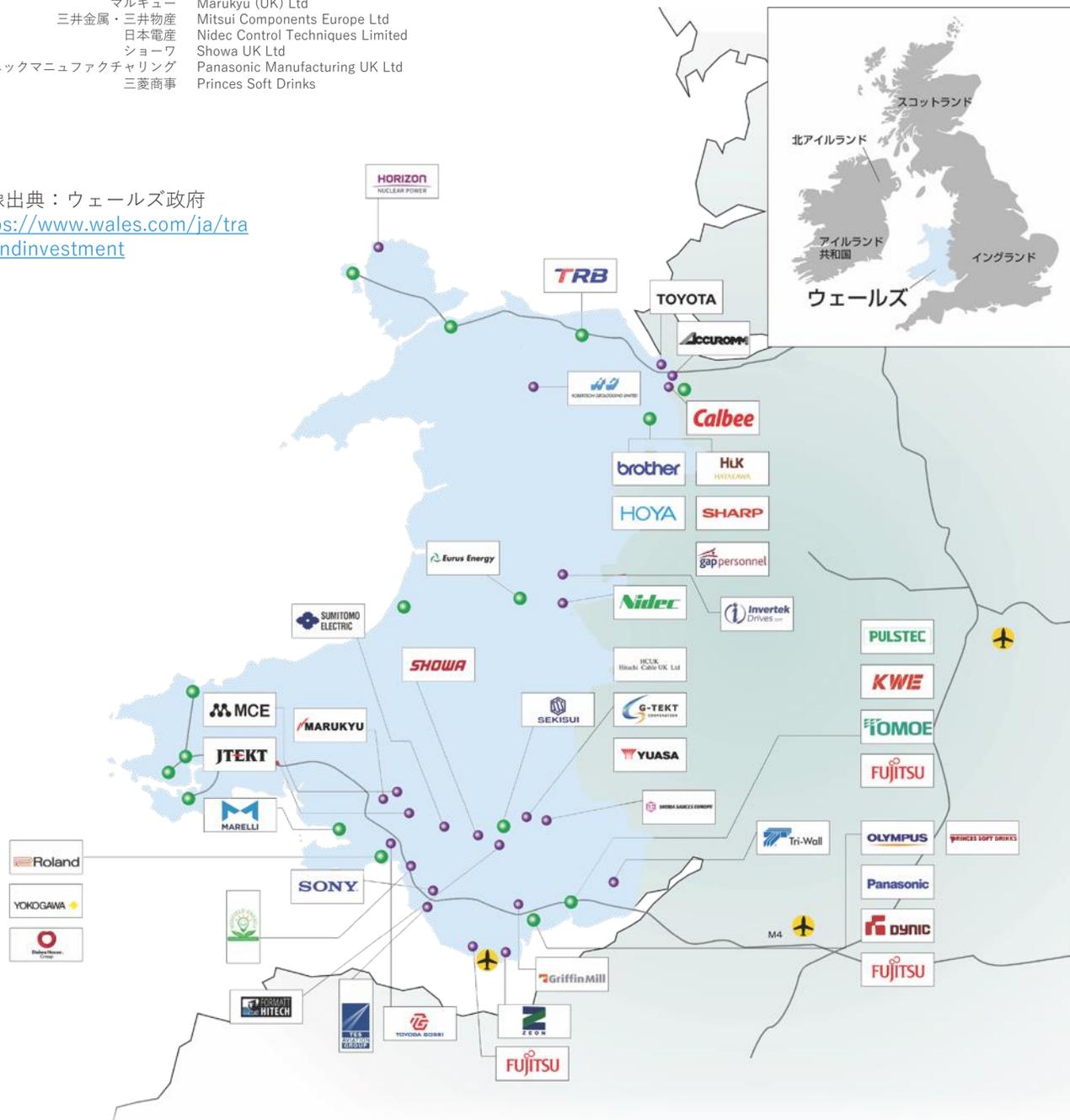
「日ウェールズ関係へのコミットメントを再確認し、2050年までにネットゼロを達成するという共通の目標など、新しい成長分野における協力のための議論をすることを楽しみにしています。」と述べた。

ウェールズに拠点を置く日系企業

- 富士精工
- ブラザー工業
- カルビー
- マレリ
- ダイニック
- ユーラスエナジーホールディングス
- ケンコー・トキナー
- 富士通サービス
- トラスト・テック
- VTホールディングス
- ジーテクト
- オリンパス
- ハヤカワ電線工業
- 日立電線
- 日立製作所
- HOYA
- 住友重機械工業
- 大和ハウス工業
- ジェイテクト
- 近鉄エクスプレス
- マルキュー
- 三井金属・三井物産
- 日本電産
- ショーワ
- パナソニックマニュファクチャリング
- 三菱商事
- Accuromm (UK) Ltd
- Brother Industries (UK) Ltd
- Calbee
- Marelli Automotive Systems Europe plc
- Dynic (UK) Ltd
- Eurus Energy Holdings Corporation
- Formatt Hitech
- Fujitsu Services
- Gap Personnel Holdings Ltd
- Griffin Mill Garages Ltd
- G-TEKT Europe Manufacturing Ltd
- Gyrus Medical, Ltd
- Hayakawa International (Europe) Plc
- Hitachi Cable UK, Ltd
- Horizon Nuclear Power
- Hoya Lens UK, Ltd
- Invertek Drives Ltd
- Jan Snel UK Ltd
- JTEKT Automotive UK, Ltd
- Kintetsu World Express (UK) Ltd
- Marukyu (UK) Ltd
- Mitsui Components Europe Ltd
- Nidec Control Techniques Limited
- Showa UK Ltd
- Panasonic Manufacturing UK Ltd
- Princes Soft Drinks

- パルステック工業
- 応用地質
- ローランド
- 積水化学工業
- シャープ
- ソニー
- 住友電工・住友電装
- 正田醤油
- 三菱商事・日本政策投資銀行
- 巴バルブ
- 豊田合成
- 東海理化
- レンゴウ
- ウィンフィールドジャパン
- 横河電機
- ユアサ
- 日本ゼオン
- Pulstec Industrial Co. Ltd
- Robertson Geologging Ltd
- Roland (UK) Ltd
- Sekisui (UK) Ltd
- Sharp Manufacturing Company of UK
- Sony Manufacturing Company of UK
- Sumitomo Electric Wiring Systems (Europe) Ltd
- Shoda Sauces Europe Company Limited
- TES Aviation Group
- Tomoe Valve Ltd
- Toyoda Gosei U.K. Ltd
- TRB Ltd
- Tri-wall Limited
- Winfield Energy UK Ltd
- Yokogawa Energy UK Ltd
- Yuasa Battery (UK) Ltd
- Zeon Chemicals Europe Ltd

画像出典：ウェールズ政府
<https://www.wales.com/ja/tra-deandinvestment>

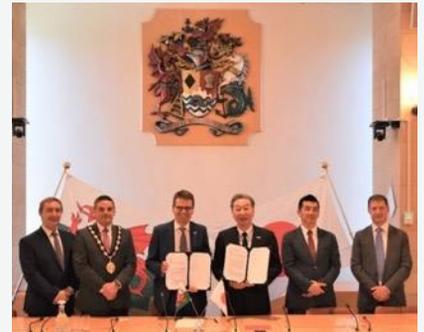


ウェールズにおける日本企業の主な取引

丸紅、Bridgend County Borough Councilとグリーン水素プロジェクトの開発に関するMoUを締結 - 2022年7月

本プロジェクトは、水素の製造と供給を最適化するエリアエネルギーマネジメントシステム（以下、AEMS）を開発・展開するものである。AEMSの導入により、水素製造プラントはエリア単位でエネルギー供給、貯蔵、需要のバランスをとることができるようになる。製造された水素は、燃料電池車などの運輸部門の燃料や、地域の暖房用燃料として利用される予定である。

2019年、ウェールズ政府は2030年までに公共部門をカーボンニュートラルにする目標を発表し、2024年までに再生可能水素製造拠点を設置する計画を打ち出した。丸紅とのプロジェクトは、最終的に同政府のこれらの目標達成に貢献することを目的としている。



住友重機械工業、ウェールズの大手メーカーを買収 - 2019年



Inverter Drives Ltd.は、インバーターの主要なイノベーターおよびメーカーの1つで、ウェールズのWelshpoolにグローバル本社と製造拠点を置いている。従業員数は320名、製品の90%以上を80カ国以上に輸出しており、1998年の設立以来、前年比大幅な成長を遂げ、2018年の売上高は3500万ポンドを記録している。

今回の買収は、住友重機械工業が電気モーターやインバーターなどの新技術を統合し、ロボットやポジショニングなどのターゲットセグメントでグローバルな成長を実現することで、さらなる事業の強化・拡大を目指す一環として行われたものである。

商船三井、ウェールズの波力発電会社Bomboraへ出資 - 2022年

株式会社商船三井(MOL)は、ウェールズの膜型波力発電装置 mWave™を開発するスタートアップ企業Bomboraと、2020年より波力発電事業の可能性を探るための協業を開始し、2022年には日本およびその周辺地域に加え、欧州地域におけるmWave™を用いた波力発電の事業化を推進するため出資を実行した。

この協業において、商船三井はターゲットとなる地域におけるサプライチェーンの構築や、海事コンサルティング業務、またこれまで海洋事業で培ったノウハウを活用することで、Bomboraの技術と mWave™がもたらすグローバルな事業開発を一層加速させ、最終的に、地域全体で新たな持続可能なビジネス成長の機会促進を目指している。



ウェールズにおける非日系外国企業とのコラボレーション事例

ウェールズには多くの大手企業が進出しており、その多くが政府機関や学術機関とのパートナーシップを結び、各業界におけるイノベーションを促進している。以下は、そのようなコラボレーションの2つの例である。

コラボレーション



IQE

プロジェクト: CSC- Compound Semiconductor Centre

種類: 産学官連携

プレイヤー: IQE, Microchip, Cardiff Capital Region (CCR), ウェールズ政府, Cardiff University

概要: CCRとIQEは、ニューポートにある既存の工場建物の敷地内に、化合物半導体ファウンドリを作るために3790万ポンドを投資する。このプロジェクトは、カーディフ・ニューポート地域を半導体の技術革新と生産の拠点として発展させ、関連する産業界の民間企業から最大3,500万ポンドの追加投資を呼び込むことを目的としている。

また、このプロジェクトには、カーディフ大学の化合物半導体研究所も参加しており、そこで行われている研究の商業化を目指している。

コラボレーション

AIRBUS



Airbus

プロジェクト: Endeavr

種類: 産学官連携

プレイヤー: Airbus, Cardiff University, ウェールズ政府

概要: Airbusは、カーディフ大学およびウェールズ政府と提携し、デジタルエコノミー、低炭素経済、先進エンジニアリングおよび製造におけるイノベーションを推進するアクセラレータープログラム「Endeavr」を運営している。具体的には、航空宇宙工学、次世代マイクロエレクトロニクス、サイバーセキュリティなどの分野に焦点を当てている。

このプログラムは、有望なアールリーステージの起業家の技術の商業化を支援するものである。PoC、プロトタイプング、テストの計画・実行を支援し、市場投入の段階に到達させることを目的としている。

注目のスタートアップ：ユニークなテクノロジー



Trameto

概要: Trametoは、ワイヤレスIoTアプリケーションのバッテリーレス化に貢献することを目的に、エネルギーハーベスティングPMICを設計するファブレス半導体企業である。

ウェールズについて: ウェールズ開発銀行（Development Bank of Wales）から一部資金援助を受けているほか、ウェールズ政府からもさまざまな助成金を獲得している。ウェールズは、カーディフにある英国政府の「Compound Semiconductor Applications CATAPULT」のおかげで半導体関連の活動が盛んであり、また、英国のシリコン企業クラスターの一つであるブリストルに近いという利点もある。

日本について: 日本には、産業用IoTの分野で垂直統合された企業が数多くあり、IoTシステムプロバイダーやTrametoが行っていることを補完することができる他のチップ企業も存在する。日本は、Trametoにとって本当に興味深い市場である。

Jellagen

概要: Jellagenは、クラゲ由来の革新的な代替コラーゲンを開発する海洋バイオテクノロジー企業であり、そのコラーゲンは、医療機器や科学研究に理想的なバイオマテリアルである。

ウェールズについて: Jellagenは、ウェールズ開発銀行（Development Bank of Wales）の支援を受けており、最近、ウェールズで最も革新的な新しいライフサイエンスビジネスを見つけるためのLife Sciences Hub Wales Boost Cymru competitionで優勝した。また、クラゲからコラーゲンを抽出する世界初の商業用製造プラントをウェールズに設置するため、Innovate UKから22万5000ポンドの助成金を受けている。

日本について: アジア太平洋地域を中心とした再生医療や細胞治療の研究は、過去数年にわたり新たな治療法への道を切り開いてきた。Jellagenは、製品をアジアで展開するためBiowareと提携し、この大きなチャンスに対応する。



注目のスタートアップ：エネルギー



Marine Power Systems

概要：MPSは、再生可能エネルギー市場向けに、海洋波と風の両方の力を利用した画期的な新装置を開発している。

ウェールズについて：MPSは最近のインタビューで、「ウェールズの海洋エネルギー分野は活気に満ちており、これまでに1億5200万ポンド以上が海洋再生可能エネルギー分野に投資され、急速に成長している。2つの大規模な波力・潮流実証区、3つの海洋・潮流プロジェクトのための海底協定、大規模な洋上浮体式風力発電プロジェクトの提案などがあり、ウェールズは海洋エネルギーにおいて世界有数の役割を果たすことができる位置にある」と述べている。」

日本について：同社は最近、MSparcで日本風力発電協会と会談し、日本のデベロッパー、EPC、エネルギー企業、学界とより緊密に協力する機会について話し合った。MPSは日本との協元に意欲的であり、「日本が浮体式洋上風力発電を早期に導入したことに感銘を受けている」と述べている。

Crossflow Energy

概要：Crossflow Energyは、従来の方法よりも低コストで発電できる風力タービンを開発しており、家庭、工場、高速道路のガントリー、公共施設など、身近な場所で利用できるようにする。

ウェールズについて：Crossflow Energyは、新しい風力発電プロジェクトの開発を促進するため、ウェールズ政府のSMART Cymru資金を獲得した。多くのエコビジネスが集まるBaglan Bay Innovation Centre Energy Parkに拠点を置く同社は、ウェールズ政府のデジタルインフラチームからも支援を受けている。

日本について：Crossflow Energyは、日本の再生可能エネルギーへの取り組みに関心を持っている。同社のビジネス戦略は、世界的に実績のある大手OEMやサービスプロバイダーと提携することであり、日本企業もその一部となる可能性がある。



注目のスタートアップ：ソフトウェア



Novatiq

概要：Novatiqは、広告用のデジタルID認証プラットフォームを開発している。これにより、通信会社が匿名化された顧客データを広告主に販売することや、モバイル広告のパーソナライズが可能になる。

ウェールズについて：Novatiqは、Repayable Business Finance（RBF：ウェールズ政府が雇用創出を目的としたプロジェクトの資金調達を支援する主要プログラム）、およびウェールズ開発銀行(Development Bank of Wales)が管理する出資者の支援を受けている。

日本について：2021年、Novatiqは、データドリブンデジタル広告の日本のリーダーであるSupershipホールディングスとの提携を発表した。このパートナーシップは、まず日本で開始され、Novatiqがアジア太平洋地域全域でプレゼンスを拡大することを目的としている。個人情報保護に関する日本の規制が変化する中、Novatiqのテクノロジーは、KDDIの新しいデジタル広告配信プラットフォームにも貢献している。

Vizolution

概要：Vizolutionは、複数のチャンネルにまたがる販売プロセスの顧客体験向上を目的としたソフトウェアを開発している。

ウェールズについて：2020年のインタビューでCEOは、ウェールズに拠点を構えたことが成功の鍵だったと語っている。「ウェールズに拠点を置く理由のひとつは、人材を惹きつけ、維持できることだ。ロンドンでは、すぐに人材を採用できるかもしれないが、すぐに人材がいなくなってしまう。ウェールズのビジネス環境は魅力的である。ウェールズ政府による研究開発プログラムも充実しているし、ウェールズ開発銀行(Development Bank of Wales)も非常に協力的である。また、私たちはスウォンジー大学とも連携している。」

日本について：Vizolutionの戦略上、国際展開は重要な位置を占めており、欧州、北米、アジアの金融サービス機関、通信事業者、公益事業会社をターゲットとしている。



注目のスタートアップ：FinTech & MedTech



Aparito

概要： Aparitoは、モバイルアプリ、ビデオ評価、ウェアラブルデバイスを通じて、患者がどこでも臨床試験に参加できる臨床試験プラットフォームを提供する。

ウェールズについて： Aparitoは、北ウェールズのWrexhamにあるGwenfro Technology Parkに本社を構えている。同社は、北ウェールズのNHSウェールズ地域医療委員会であるBetsi Cadwaladr University Health Boardと提携し、パンデミック時のがん患者の遠隔モニタリングとデータ収集を実現した。

日本について： Aparitoのプラットフォームを用いて日本から臨床試験に参加している患者もいる。高齢化が進む日本は、同社にとって重要な焦点であり、また、日本には強力な医薬品開発および製薬産業が存在するため、将来的に重要なパートナーシップの機会がある可能性がある。

Delio

概要： Delioは、ウェルス・マネジメント会社、プライベートバンク、金融機関向けに、プライベートディール・フローと富裕層資本との接続を容易にするホワイトラベルのデジタルプラットフォームを開発している。

ウェールズについて： Delioは、ウェールズ開発銀行から50万ポンド相当の出資を受けている。また、GS Verde Group、Global Welsh、Angels Invest Walesなど、ウェールズのクライアントも複数抱えている。

日本について： アジアにおける富裕層の増加により、Delioはアジアを重要な市場と位置づけている。同社は三井住友信託銀行にプライベートエクイティと不動産投資のための新しいデジタルプラットフォームを提供することになった。CEO兼共同設立者のGareth Lewisは、「三井住友信託銀行のチームと協力し、長期にわたる大きな成功が期待されるこの関係の第一歩を踏み出せるのはとても喜ばしいことです」と述べている。



ディレクトリ：ウェールズのアクセラレータとインキュベータ

下表は、ウェールズのスタートアップエコシステムに貢献するアクセラレータ、インキュベータ、その他の関連組織の概要である。

Name	Location	Public/Private	Focus areas	Type
Fintech Wales Foundry	Cardiff	Private non-profit	Fintech	Accelerator
Alacrity Foundation	Newport	Public-private	All sectors	Accelerator
Tramshed Tech	Cardiff, Newport	Private	All sectors	Incubator
Barclay Eagle Labs Cardiff	Cardiff	Private	All sectors	Incubator
ICE	Caerphilly	Private	All sectors	Incubator
M-Sparc	Anglesey	Public	Science and Technology	Incubator
Level Up (M-Sparc)	Anglesey	Public	Science and Technology	Accelerator
Swansea University Incubation Facility	Swansea	Public	Life sciences	Incubator
Cardiff Medicentre	Cardiff	Public	Biotech, Medtech	Incubator
Swansea University Medical School Innovation and Enterprise Centre	Swansea	Public	Medtech	Incubator
Technology Connected	Cardiff	Private	Technology	Network
USW Startup Stiwdio	Cardiff	Public	All sectors	Incubator
Venture Wales	Cardiff	Private non-profit	All sectors	Accelerator
	Various	Public	All sectors	Member association and network
Be the Spark				
Life Sciences Hub: Accelerate Wales	Cardiff, Carmarthen	Public	Healthcare, Medtech	Accelerator
AberInnovation	Aberystwyth	Public	Biotech, biological sciences	Incubator
	Wrexham, Cardiff, Rhyl	Private	All sectors	Accelerator, incubator
Town Square	Various	Private non-profit	Technology	Member association and network
TechSPARK Wales				
Nurture Ventures BioAccelerate	Aberystwyth	Private	Life sciences, healthcare	Accelerator
Cardiff Start	Cardiff	TBC	TBC	TBC
	Llandudno	Public	Manufacturing, agriculture, low carbon energy	Various projects and investments
Ambition North Wales	Anglesey, Bridgend	Private (with some public funding)	Life sciences, circular economy, food and drink, advanced manufacturing	Various projects including publicly funded accelerator schemes
Bic Innovation				
Cardiff Business Technology Centre	Cardiff	Public	Technology	Incubator
Data Nation Accelerator	Various	Public	Data Science	Various projects
ASTUTE2020	Various	Public-private	Manufacturing	Various projects
Endeavr	Newport	Public-private	Aerospace, energy, deep tech	Accelerator

ディレクトリ：ウェールズへの主な投資家

下表は、ウェールズのスタートアップエコシステムで活躍するトップインベスターのリストである。
(Beauhurst, 2022)

Name	Location	Public/Private	Focus areas	Type	No. of Equity Deals 2011-2020
Development Bank of Wales	Wrexham, UK	Public	All sectors	Grant, non-equity, equity	391
Seedrs	London, UK	Private	All sectors	Equity crowdfunding	34
Crowdcube	Exeter, UK	Private	All sectors	Equity crowdfunding	24
Angels Invest Wales	Wrexham, UK	Public	All sectors	Angel	19
IP Group	London, UK	Private	Technology (university spinouts)	Private equity	14
Fusion IP – NB acquired by IP Group	Sheffield, UK	Private	University spinouts, technology	Private equity	12
Mercia Fund Managers	Henley-in-Arden, UK	Private	All sectors, regional focus	Private equity	9
Sunnybarn Investments	Brecon	Private	All sectors	Private equity	8
SFC SEIS Fund	London, UK	Private with public backing	All sectors, early stage focus	Angel, VC	7
BGF Growth Capital	London, UK	Private	All sectors	Private equity	6
Wealth Club	Bristol, UK	Private	All sectors	Private equity	5
UK Steel Enterprise	Sheffield, UK	Private	Steel industry	Debt, private equity	5
SFC Capital	London, UK	Private	All sectors	Angel, VC	5
Minerva Business Angel Network	Coventry, UK	Public university backed	Technology	Angel	5
Blueray Capital	London, UK	Private	All sectors	Debt, equity	5

下表は、ウェールズに拠点を置く投資会社および資金調達機関の概要である。

Name	Location	Public/Private	Focus areas	Type
Development Bank of Wales	Wrexham	Public	All sectors	Grant, non-equity, equity
Angels Invest Wales	Wrexham	Public	All sectors	Angel
Mayfair Ventures	Cardiff	Private	All sectors	VC
Research Wales Innovation Fund	NA	Public	University spinouts	Grant
Seyn Seed Finance	Cardiff	Private	Early-stage, all sectors	VC
Sunnybarn Investments	Brecon	Private	All sectors	Private equity
Nurture Ventures	Port Talbot	Private	Healthcare	VC
Sonovate	Cardiff	Private	All sectors	VC
Smart Anchor Ventures	Cardiff	Private	Technology	VC
Wesley Clover via Alacrity Fund	Newport	Private	SaaS	VC

ディレクトリ：ウェールズにおける主要企業

下表は、2020年時点のウェールズに本社を置く大手企業30社の一覧である。
(Source: Business Live Wales Top 300)

No.	Name	Location	Sector	Turnover (£ 000s)
1	Admiral Group	Cardiff	Financial and Professional Services	3,463,500
2	Iceland	Deeside	Wholesale and Retail	3,084,700
3	GE Aircraft Engine Services	Cardiff	Manufacturing	2,232,232
4	Redrow	Deeside	Construction and Building	1,339,000
5	Glas Cymru Holdings Cyfyngedig	Treharris	Energy and Water	781,600
6	Marelli Automotive Systems	Llanelli	Manufacturing	735,897
7	Sinclair Motor	Bridgend	Wholesale and Retail	545,579
8	Dow Silicones UK	Barry	Manufacturing	518,282
9	Celsa	Cardiff	Manufacturing	518,512
10	IG Design	Hengoed	Manufacturing	448,400
11	Wales and West Utilities	Newport	Energy and Water	444,400
12	Wynnstay Group	Llansantffraid	Food and Drink	428,657
13	Pioneer UK	Cardiff	Manufacturing	428,626
14	The Royal Mint	Pontyclun	Manufacturing	421,627
15	Ipsen Biopharm	Wrexham	Manufacturing	389,485
16	Moneysupermarket.com	Deeside	Financial and Professional Services	388,400
17	Huws Gray	Llangefni	Construction and Building	380,933
18	Watkin Jones	Bangor	Construction and Building	374,785
19	Kingspan	Holywell	Manufacturing	367,081
20	Kronospan	Wrexham	Manufacturing	362,175
21	Liberty Steel Newport	Newport	Manufacturing	326,189
22	GS Yuasa Battery Europe	Ebbw Vale	Manufacturing	321,917
23	Finsbury Food Group	Cardiff	Food and Drink	306,348
24	Sofidel UK	Neath	Manufacturing	305,019
25	Mon Motors	Cwmbran	Wholesale and Retail	286,442
26	Tenneco-Walker	Methyr Tydfil	Manufacturing	282,244
27	Safran Seats GB	Cwmbran	Manufacturing	274,968
28	Tinopolis	Llanelli	Creative Industries	271,915
29	SPTS Technologies	Newport	Manufacturing	265,437
30	PHS Group	Caerphilly	Business to Business Services	264,998



JETRO (日本貿易振興機構) ロンドン インベストメント・チーム

-  住所： Cheapside House, 134/138 Cheapside, London, EC2V 6BJ
-  メール： LDN_Invest@jetro.go.jp
-  LinkedIn: <https://www.linkedin.com/company/jetro-europe-innovation/>
-  ウェブサイト： https://www.jetro.go.jp/uk/Invest_in_Japan.html

本レポートは、日本貿易振興機構（ジェトロ）ロンドン事務所が Intralink Limited に委託し、2022年8月時点までに入手した情報に基づき作成しています。本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。